

宇宙樹 Yggdrasil



会報 2010 年 12 月号
復刊 No.188 (2010.12.13 発行)
北欧文化協会
112-0014 東京都文京区関口 3-13-4
TEL (03) 3941-9792
<http://www.hokuobunka.org/>

本誌名「宇宙樹」の由来 北欧神話の根幹をなし、天・地・地下の三界を貫く巨大なトネリコ(イグドラシル Yggdrasil)の樹にちなんだもの

協会創立：1949.10.
本誌創刊：1956.03.

【2010 年 11 月例会報告】

11 月 19 日 (金)

「パール・ラーゲルクヴィストを読もう…『バラバ』を中心に」

山下泰文(東海大学名誉教授)

昨今のスウェーデン文学は犯罪小説が大流行で、我が国でも世界で 2 千万部を売り上げたというステイーグ・ラーションの「ミレニウム」3 部作が翻訳出版されて話題となった。ラーションの他に 1960 年代後半から 70 年代前半にかけて大活躍したパール・ヴァールとマイ・シェーヴァルの「マルティン・ベック」シリーズを彷彿させる「カット・ヴァランデル警部」シリーズ全 9 巻の著者、ヘニング・マンケルもその多くが翻訳されているし、リーサ・マルクルンドも『爆殺魔』の 1 冊だけではあるが、やはり紹介されている。スウェーデン犯罪小説の隆盛は我が国でも顕著だ。

そもそもスウェーデンは文学大国で、ノーベル文学賞の受賞作家だけでも、『ニルスのおしぎな旅』のセルマ・ラーゲルレーヴ(1909 年受賞)を皮切りに 6 名もいる。もっとも、1974 年、最後の受賞者ハッリ・マッティンソンとエイヴィンド・ユンソンの異例の同時受賞は大変な物議をかもしたが、今回、採り上げたパール・ラーゲルクヴィストもこの 6 名の 1 人で、小説『バラバ』(1950)が受賞対象作となって、1951 年に受賞した。今日、スウェーデンでノーベル賞にもっとも近い文人は「メタファーの巨匠」と称される詩人トーマス・トランストレンメル。彼は 1990 年に脳卒中に襲われ、右半身麻痺と会話能力の喪失というハンディを乗り越えて、病後に詩集を 2 冊発表し、特に最後の『大きな謎』はほぼ全篇が俳句詩から成っていて、日本人としてことさら近親感を覚える。

さて、本題のラーゲルクヴィストに話を戻すと、彼は 1912 年に作家デビューして以来、一貫

して我々の存在の根源的な問題、人間性の核心的な問題を追及してきた。創作の基本姿勢を普遍的な人物像の創造に置き、人生の意味、人間性に潜む悪や蛮性、信仰への希求と懐疑、神の不在等を主テーマに生涯で詩や小説、戯曲、随想的散文など 40 数篇を著した。まさしく『人間という存在の俗悪さと崇高さにその一生を捧げてきた詩人』(E. Hj. リンデル) だった。

『バラバ』は作家の典型的な普遍的人間像を追求した傑作小説で、信仰を希求しながらも、神に身を任しきれず、つねに懐疑の目でイエスや信者たちを見る、現世的な物質論者の盗賊バラバを描いた小説だ。主人公バラバは聖書に出現する、イエスが身代わりになることで放免された人殺しで、作品の時代設定も原始キリスト教時代。だが、作家の狙いは特定の時代の特定の人物を再現する歴史小説ではなく、信仰と不信仰の狭間で苦悩する普遍的な人物、いわゆる作家の「信仰なき信者」の悲劇的な姿の創造にある。

小説は構造的にも極めて興味深い。作品は 4 場面と 4 処刑が設定されていて、冒頭のイエスの処刑と巻末のバラバの処刑、その間に挿入されたイエス追隨者の兎唇女とサハクの処刑は、作品をほぼ中折りすれば、それらの処刑がほぼ相似的に重なり合う。作品は対称的な相似構造を有し、しかもその構造はイエスとバラバの人物描写にも及ぶ。イエスを命題とし、その反対命題にバラバを置くことで、対立する世界観、概念世界を対照的に提示するのだ。両者の世界は光と闇によって象徴され、その対称的な対比技法はイエス追隨者たちと

バラバとの関係においても生かされる。作家は、プロットの進行上でも、主人公のイエスとの関わりや信仰への希求を扱う章と信仰への懐疑や不信を暗示する章をほぼ交互に隔章毎に出現させて、バラバの信仰と不信、つまり *det som inte finns*<実在しないもの>の形而上的世界観 (=信仰、愛、連帯感、安全、死の容認等) と *så som det är*<あるがまま>すなわち *den nya läran*<新教義>のダウニズム的世界観 (=現実主義、唯物主義、有限の生、生への執着、死への恐怖、不安等) の間で揺れ動く主人公を描く。

作家の「信仰なき信者」の原風景は自伝的小説

『現実の客』(1925) に描かれている。極めて宗教色の強い家庭環境で生育した作家の分身、少年アンダシは思春期に「新教義」に傾倒し、祖父母や両親たちの旧文明的世界観に決着をつけることなく、後ろ髪を引かれる思いで決別した。だから、後年、詩集『黄昏の国』(1953) で「何故に思い出す、このことを？/それが私に何の関わりがあるというのか？」と自問しながら、老いた目で詩人が振り返って見る心象風景はヴェクシェーで経験した幼年期の原風景だった。ここに彼の『バラバ』や『巫女』(1956)等、50年代以降の創作の原点が見え隠れする。

グリーンランド見聞記 (上)

本会理事 百瀬淳子

世界最大の島グリーンランドは人口 57000 人、90%がイヌイットで残りがデンマーク人などです。こちらのイヌイットはカラーリットと呼ばれます。冬季の平均気温は、首都ヌーク周辺で氷点下 10 度 C、ときに 20 度になります。

この島は 985 年、罪を犯して国外追放されたノルウェーの赤毛のエリックが発見して、グリーンランドと名付けたといわれます。それからアイスランドやノルウェーのヴァイキングが移住し、5000 人が 500 年間住みました。しかしなぜか消えてしまい、その後、カナダからチュレー民族が移動してきて住みはじめ、今日に至ったといわれます。16 世紀にデンマーク領になりました。1979 年にデンマーク本国から高度な自治権を獲得し、グリーンランド語も公用語としました。独立への願望が強く、近年の温暖化で莫大な地下資源の発掘が容易になったことで、独立への希

望も見えてきたとの指摘もなされるようになりました。

さて、2010 年 3 月 1 日、私たちツアー一行は、コペンハーゲン、ヘルシンキ経由で西グリーンランドのイルリサット空港に下り立ちました。まず目に映ったのは、身近にそそり立つ雪と岩盤のまだらな岩山でした。樹木は見あたりません。しかし、雲ひとつない青空は遠くまで広がり、まばゆい光がさしていました。

10 分ほどバスで行くと簡素な 3 階建てのホテルに着きました。ここで私たちは 3 晩を過ごします。目的の一つオーロラは見られるのか。夕食がすむと、私たちはホテルの窓からひたすら北の空を眺め出現を待ちました。忍耐の時間になります。午前 1 時過ぎ、ようやく現れたがすぐに消え去ってしまい、皆の満足度は今ひとつです。(つづく)

【次回例会案内】 1 月例会

「新春懇談会」

日時：1 月 16 日 (日) 12 時開会 11 時半より受付

場所；レストラン「ストックホルム」赤坂東急プラザ内

会費：4000 円 学生 2000 円 (飲み物 1 杯つき)

*事前のお申し込みが必要です。